

第100回 令和7年度 全日本盲学校教育研究大会 東京大会

第5分科会

実践で活躍できる人材育成の場としての臨床実習の役割と意義
～社会に求められるあん摩マッサージ指圧師、
はり師及びきゅう師について考える～

日時◆令和7年8月1日（金） 9:00～11:30

会場◆国立オリンピック記念青少年総合センター

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町 3-1

日本理療科教員連盟

実施要項

1. テーマ

実践で活躍できる人材育成の場としての臨床実習の役割と意義

～社会に求められるあん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師について考える～

2. 目的（テーマの設定理由）

現代の日本においては、働く場所や働き方が多様化するとともに、高齢者人口の増加が加速するなど社会状況はめまぐるしく変化している。このような社会状況の下、あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師（以下「あはき師」という。）に求められる専門性や技術も変化しており、さらなる向上が期待されている。

一方、盲学校や更生援護施設等において理療を学ぶ視覚障害者の背景は多様化しており、様々な特性を有する生徒が増加しているのが現状である。これらの生徒が社会で活躍するあはき師へと成長するためには、基礎的な知識や技術の習得が不可欠であり、特に臨床実習において実践力を養うことは極めて重要である。このような状況の中で、指導者には、生徒一人ひとりが抱える個別の課題に対し、決して妥協することなく、常に真摯かつ徹底的に向き合う姿勢が求められる。その責務は極めて重く、日々、細部に至るまで丹念な指導を続けることが不可欠となっている。

本討論会では、臨床・研究・教育、さらには開業あはき師の視点から特別講演を実施し、質疑応答及び討論会を通じて臨床実習の本来の役割・意義を整理・確認する。さらに、「指導の考え方」や「生徒が身に付けるべき実践力」を明確にし、「社会に求められるあはき師の姿」について組織としての取組みの在り方を探求する一助とする。

3. 主催

日本理療科教員連盟 教育研究部

4. 日時

令和7年8月1日（金） 9:00～11:30

5. 場所

国立オリンピック記念青少年総合センター

6. 内容

(1) 特別講演

特別講演 1)

講師：渡邊 健 先生（銀の森治療院 院長）

演題：臨床と研究に導いてくれた盲学校での臨床実習

～盲学校の「学びの環境」から見えてくるもの～

特別講演 2)

講師：山口 智 先生（埼玉医科大学 医学部 客員教授）

演題：あはき師養成段階における臨床実習の在り方

～社会から求められる専門性の高いあはき師の育成に向けて～

(2) 質疑応答・全体討論

7. プログラム

9:00～9:10 プログラム・討論会の趣旨説明

司会：緒方 梨絵（筑波大学附属視覚特別支援学校）

9:10～9:55 特別講演 1)

講師：渡邊 健 先生（銀の森治療院 院長）

演題：臨床と研究に導いてくれた盲学校での臨床実習

～盲学校の「学びの環境」から見えてくるもの～

司会：佐々木孝浩（茨城県立盲学校）

9:55～10:40 特別講演 2)

講師：山口 智 先生（埼玉医科大学 医学部 客員教授）

演題：あはき師養成段階における臨床実習の在り方

～社会から求められる専門性の高いあはき師の育成に向けて～

司会：金本 浩忠（福岡視力障害センター）

10:40～11:20 質疑応答・全体討論

司会：東條 正典（茨城県立盲学校）

11:20～11:30 助言者から

特別講演要旨

1) 渡邊 健 先生（銀の森治療院 院長）

福島県鍼灸師会 理事／国立大学法人 筑波技術大学 客員研究員

【講演テーマ】

臨床と研究に導いてくれた盲学校での臨床実習

～盲学校の「学びの環境」から見えてくるもの～

【要旨】

視覚障がいを抱えたあはき師が、見えない、あるいは見えづらい状況の中で、同じ国家資格を有する晴眼者と同じ臨床という舞台であはき業を生業（なりわい）として人生を成立させることは容易なことではない。それを実現するためには、晴眼者にも勝るより高い専門性とより豊かな人間性を身につける必要がある。それを育成し得る環境こそ、「臨床×教育×研究」の三位一体の機能を備えた「盲学校」なのである。

かつては小中学校の教員であり、現在は臨床家、また研究者である演者が、進行性の障害を抱えながら様々な立場で自らが感じ、考え、見つめ、歩き続けてきた経験を通して、盲学校の持つ高い潜在能力について改めて考えを巡らせてみたい。

【講演内容】

1. 「学校教育」とは
2. 「学び」を成立させる盲学校環境
3. 「臨床×教育×研究」で育てる力
4. 理療教育の目的
5. 臨床・教育・研究のリレーショナル関係
6. 私にとっての旧福島県立盲学校環境
7. 研究紹介（安全性・再現性の高い坐骨神経鍼通電療法の提案）

2) 山口 智 先生 (埼玉医科大学 医学部 客員教授)

全日本鍼灸学会 代表理事／日本東洋医学系物理療法学会 会長

【講演テーマ】

あはき師養成段階における臨床実習の在り方

～社会から求められる専門性の高いあはき師の育成に向けて～

【要旨】

1. 医科大学における診療や研究・教育の成果

演者は40年間にわたり医科大学において鍼灸や手技療法の診療や、研究・教育に従事してきた。この間、当科の最大の目的は東洋医学の科学化と医療連携の確立である。鍼灸や手技療法を社会や医療界・医学界に広く啓発・普及するための最大の手段と考えた。

診療においては、大学病院内の診療科や専門医と連携し、患者に満足度の高い医療サービスを提供することとした。最近の当科の実態分析では、受診患者の67.6%が専門医からの診療依頼であった。依頼診療科は脳神経内科や耳鼻科・整形外科・リウマチ科・リハビリテーション科・代謝内分泌糖尿病内科などであった。

対象となった疾患は難治性の痛みや麻痺、さらに、機能性の疾患である不定愁訴などが大半を占めた。鍼灸治療はこうした患者の症状の改善とQOLの向上に寄与することが示唆された。

研究においては、他の専門診療科の専門医と連携し、鍼灸や手技療法の基礎・臨床研究を推進し、国内外の専門医学会にその成果を報告した。脳循環や自律神経・免疫を指標とした研究で、鍼灸や手技療法は主に高位中枢を介し、生体の恒常性に関与することがわかった。こうした生体の正常化作用が現代西洋医学の治療とは異なる伝統医療の特質であることを明らかにした。

2. 専門性の高いあはき師の育成

近年、医療が大きな転換期を迎え、患者中心の医療へと変化してきた。こうしたなかで、各界からの鍼灸手技療法への期待が大きいことを痛感している。このような状況においてあはき師の質の向上が大きく期待され専門性の高い

人材の育成に早急に着手する必要性がある。

養成機関における臨床実習は極めて有用な事項であり、医療機関での実習を含め、大規模な改革が待たれる。つまり、専門性の高いあはき師は現代西洋医学と東洋医学の高度な知識を有し、それぞれの分野で医師と十分連携し、患者の診療にあたらなければならない。

3. あはき教育に期待すること

専門性の高いあはき師を養成するには当然のことであるが担当する教員が診療や研究に着手し、その成果を教育に反映することである。つまり、教員は臨床家であり、研究者でもあり、こうしたスキルを教育に活かし、時代の要請に応え得る質の高い、特に臨床に強いあはき師を社会に輩出し、医療機関や産業医学の分野で活躍できることを切に願って止まない。

【講師紹介】

渡邊 健 先生 銀の森治療院 院長

(福島県鍼灸師会 理事／国立大学法人 筑波技術大学 客員研究員)

1968 年、福島県二本松市生まれ。福島県立福島高等学校、国立大学法人岩手大学教育学部卒業後、福島県内の公立小中学校教諭及び県教育センター研究員として 23 年間教職に従事。教育論文受賞歴多数。

- 2015 年 視覚障害が重篤化したため退職し旧福島県立盲学校専攻科理療科に入学。同学において銀鍼技術向上を目的とした「銀の会」を主宰。同年、第 84 回全国盲学校弁論大会に出場し最優秀賞を受賞。
- 2017 年 日本東洋医学系物理療法学会発表。
- 2018 年 日本東洋医学系物理療法学会長賞および県立盲学校長賞を受賞。同年、「はり師」、「きゅう師」、「あんま・マッサージ・指圧師」の 3 つの国家資格試験に合格し、国立大学法人筑波技術大学大学院に入学。同学において刺鍼技術向上を目的とした「ZERO 会」を主宰。
- 2019 年 全日本鍼灸学会および日本東洋医学系物理療法学会発表。
- 2020 年 修士（鍼灸学）学位授与とともに同大学保健科学部長賞を受賞、学位授与式総代拝命。
- 2020 年 同大学客員研究員着任とともに同大学附属東西医学統合医療センター鍼灸外来勤務。
- 2021 年 「銀の森治療院」開院。
- 2023 年 全日本鍼灸学会「高木賞」奨励賞受賞（東北初）。

現在、医学論文および教育論説執筆とともに、小中学校を中心に講演活動を行っている。

【講師紹介】

山口 智 先生 埼玉医科大学 医学部 客員教授

(全日本鍼灸学会 代表理事／日本東洋医学系物理療法学会 会長)

【学 歴】

- 1981 年 財団法人 東洋医学技術教育振興財団（文部省 高等教育局医学教育課所管）同年、東洋医学技術研修センター特別研修課程修了
- 1992 年 埼玉医科大学大学院専攻生課程修了
- 1995 年 博士（医学）

【職 歴】

- 1981 年 財団法人東洋医学技術教育振興財団東洋医学技術研修センター 研究員
- 1988 年 筑波大学講師（兼任）
- 1991 年 埼玉医科大学 第二内科 東洋医学部門
- 2002 年 埼玉医科大学 東洋医学診療科 主任
- 2007 年 明治薬科大学 非常勤講師
- 2009 年 埼玉医科大学 東洋医学センター 講師
- 2017 年 東京有明医療大学 客員教授
- 2020 年 埼玉医科大学 東洋医学科 准教授
- 2022 年 埼玉医科大学 大学院 看護学（兼担）
- 2023 年 4 月 埼玉医科大学 医学部 客員教授

【学会活動等】

- 全日本鍼灸学会 代表理事・副会長
- 第 58 回全日本鍼灸学会学術大会 会長
- 日本東洋医学系物理療法学会 会長
- 日本良導絡自律神経学会 名誉理事
- 日本疼痛心身医学会 理事
- 日本東洋医学会 代議員・学術教育委員
- 日本温泉気候物理医学会 評議員・学術委員

日本自律神経学会 評議員

日本頭痛学会 評議員

日本神経治療学会 評議員

第15回日本統合医療学会大会 副会長

【専門分野】

東洋医学、鍼灸医学、自律神経、脳循環、神経・運動器疾患、経絡経穴理論、
医学教育、医療連携